

政策	I グローバルロジスティクスの港・ものづくりの港(国際産業戦略港湾)	施策推進 責任者	企画調整室長・港営部長・建設部長
施策	1 国際・国内海上輸送機能の強化		

1. PLAN(目的・展開内容)

目的	サービスの対象者(誰のために)	船会社、港湾運送事業者、荷主	意図(どういう状態にしたいのか)	港湾施設が貨物量の増加や船の大型化に対応し、多頻度、多航路の航路サービスが就航し、中部地域の「ものづくり産業」の持続的な発展を支えていく港	
	サービスの対象物(何を)	港湾施設(航路・泊地、岸壁等)や航路サービス等の海上輸送機能			
展開①	背後産業を支えるコンテナ・バルク・完成自動車取扱機能の強化・拡充 船舶の大型化が進展する中、パナマ運河の拡張も進められており、航路の拡幅・増深などコンテナ物流機能の強化や、自動車産業を支える拠点港として完成自動車取扱機能の強化・拡充を図ります。また、バルク貨物の安定的かつ安価な供給をめざした国際バルク戦略港湾施策を推進します。	展開②	民の視点によるコンテナターミナルの効率化・サービス向上 港湾運営会社制度を導入し、コンテナターミナルの一元的な管理運営による効率化を図るとともに、荷役機械などの整備に対する無利子資金の貸付等による港湾コストの低減や民の視点による利用者ニーズに対応したサービス向上をめざします。	展開③	多様な航路サービスの提供に向けた集貨拡大 官民一体となった国内外へのポートセールスや、企業への訪問、背後地域の荷主等への説明会、インセンティブ施策(優遇措置)等の実施により、集貨拡大を促進し、多頻度・多航路のサービスを維持・拡充します。

2. DO(施策を構成する各事務事業の取組内容・今後の方向性)

コード	事務事業名(担当課名)	指標名【指標型】	26年度			27年度			28年度			28年度実施事業に基づく評価結果
			上段:指標	目標値	実績値	上段:指標	目標値	実績値	上段:指標	目標値	実績値	

【展開①】背後産業を支えるコンテナ・バルク・完成自動車取扱機能の強化・拡充

施01事101	東航路整備事業(事業推進課)	事業進捗率(整備費換算)【進行管理型】	86.8%	91.7%	100.0%	100%(累計)	やや遅れ	延伸	維持	維持	・浚渫船が被災地支援に対応したことにより、浚渫の工程が遅れたため。 * 今回の評価にて、事業完了年度を延伸(28→29年度)
			87.0%	91.7%	97.9%				取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。		
			548,764千円	512,141千円	655,488千円						
施01事102	庄内川泊地整備事業(事業推進課)	庄内川泊地の埋没により、使用を停止した港湾施設の数【単年度管理型】	0件	0件	0件	0件	目標値どおり	継続	維持	維持	・船舶が安全かつ円滑に入出港できる泊地の水深維持を着実に実施する必要があるため。
			0件	0件	0件				取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。		
			605,137千円	724,841千円	475,793千円						
施01事103	北浜ふ頭における新食糧コンビナート整備事業(バルク戦略担当)	事業化に向けた埋立手続きまでの進捗状況(全8工程)【進行管理型】	4工程	4工程	4工程	4工程(累計)	遅れ	延伸	維持	維持	・護岸整備費の増加や穀物輸入を取り巻く動向等が変化していることから、企業動向等を見極め、全体行程の見直しや計画内容の検証を引き続き行っていく必要があるため。 * 今回の評価にて、事業完了年度を延伸
			4工程	4工程	4工程				取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。		
			160,348千円	17,838千円	17,918千円						
施01事104	鍋田ふ頭コンテナターミナル施設改良事業(事業推進課)	事業進捗率(整備費換算)【進行管理型】	81.9%	100.0%		100%(累計)					
			69.1%	100.0%							
			143,321千円	340,981千円							
施01事105	飛鳥ふ頭物流効率化モデル事業(集中管理ゲート)の推進(港営課)	検討会・作業部会の回数【単年度管理型】	5回	5回	6回	6回	目標値をやや下回る	継続	維持	維持	・国が、全国的に集中管理ゲートを計画・設計する際の指針となる技術的な検討を行うことから、港湾関係者と連携してデータ収集を図る必要があるため。
			5回	4回	5回				取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。		
			3,852千円	4,098千円	4,004千円						
施01事106	金城ふ頭における完成自動車輸送機能の集約・拠点化事業(事業推進課)	新規岸壁整備(-12m)等の事業進捗状況(全7工程)【進行管理型】	1工程	2工程	2工程	4工程(累計)	順調	継続	維持	維持	・背後のものづくり産業の国際競争力強化に向けて、完成自動車輸送機能の集約・拠点化を早期に図る必要があるため。
			1工程	2工程	2工程				取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。		
			15,366千円	47,319千円	279,562千円						
施01事107	飛鳥ふ頭(西)ふ頭用地整備事業(事業推進課)	事業進捗率(整備費換算)【進行管理型】	26.8%	27.4%	27.4%	63.7%(累計)	順調	延伸	維持	維持	・ふ頭用地需要の動向を見極めながら、必要な事業の推進を図る必要があるため。 * 今回の評価にて、事業完了年度を延伸(31→32年度)
			26.8%	27.4%	27.4%				取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。		
			40,784千円	14,060千円	717千円						
施01事108	稲永ふ頭ふ頭用地整備事業(事業推進課)	事業進捗率(整備費換算)【進行管理型】	79.8%	79.8%	79.8%	86.5%(累計)	順調	延伸	維持	維持	・ふ頭用地需要の動向を見極めながら、必要な事業の推進を図る必要があるため。 * 今回の評価にて、事業完了年度を延伸(32→33年度)
			79.8%	79.8%	79.8%				取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。		
			0千円	714千円	717千円						
施01事109	飛鳥ふ頭東側コンテナターミナルの機能強化事業(事業推進課)	事業進捗状況(全7工程)【進行管理型】	-	-	1工程	2工程(累計)	順調	継続	維持	維持	・船舶の大型化や施設の老朽化に対応するため、着実に事業を進めていく必要があるため。
			-	-	1工程				取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。		
			-	-	40,017千円						

【展開②】民の視点によるコンテナターミナルの効率化・サービス向上

施01事201	コンテナターミナル管理運営体制の見直し(港湾運営企画担当)	伊勢湾における港湾運営会社の業務開始に向けた検討会議の回数(全8回)【進行管理型】	1回	4回	6回	8回(累計)	順調	継続	拡大	拡大	・名古屋港及び四日市港は、両港の特性を踏まえ、平成29年9月が期限となる伊勢湾で一つの港湾運営会社の指定に向けた新会社の設立のため、関係者と十分な検討を一層進めていく必要があるため。【重点化】
			1回	4回	7回				資源(財・人)の投入を拡大し、取組を強化することによって、成果をあげる必要がある。		
			38,543千円	21,406千円	21,502千円						
施01事202	伊勢湾連携の推進(企画担当)	具体的施策の取組【進行管理型】	2件	3件	3件	4件(累計)	順調	継続	維持	維持	・伊勢湾への集貨・創貨に向けて、引き続き、合同で作成したPR用のリーフレットを用いた背後圏への共同ポートセールスを行うとともに、有効な施策を検討、実施していく必要があるため。
			2件	3件	3件				取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。		
			3,964千円	4,053千円	4,032千円						

【展開③】多様な航路サービスの提供に向けた集貨拡大

施01事301	インセンティブによる船舶誘致・港湾施設の効率的な使用促進(港営課)	インセンティブによる減免額【単年度管理型】	294,000千円	260,000千円	262,000千円	274,000千円	目標値をやや下回る	継続	維持	維持	・引き続き、船舶の誘致や港湾施設の効率的な使用を更に促進する必要があるため。
			309,242千円	272,601千円	256,529千円				取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。		
			3,524千円	3,568千円	3,584千円						
施01事302	ポートセールスの推進(誘致推進課)	懇談会参加者数(国内)【単年度管理型】	1,641人	1,641人	1,641人	1,641人	目標値を上回る	継続	維持	維持	・引き続き、船会社や荷主等に名古屋港のPRを行うとともに、船舶や貨物の誘致等の働きかけを積極的に進めていく必要があるため。
			1,950人	2,027人	2,035人				取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。		
			104,219千円	92,931千円	88,381千円						
		施策コスト(合計)	1,667,822千円	1,783,236千円	1,591,715千円						

注:26年度の目標値(294,000千円)及び実績値(309,242千円)は、公共コンテナターミナルの使用料減免額が含まれています。(港湾運営会社制度の導入に伴い、27年度より公共コンテナターミナルを名古屋港埠頭に移管)

3. CHECK(成果目標の状況・28年度の取組内容など)

施策	成果目標	実績等				目標値【30年】	成果目標の達成度に対する評価(外部要因等があればその旨を踏まえて記載)	
		年	26年	27年	28年			
外貨コンテナ取扱個数		仮目標値	万TEU	(264)	(276)	(287)	310	・外貨コンテナ取扱個数は、年間に発生した自動車部品メーカーの事故や熊本地震に伴う完成車メーカーの生産ラインの停止などが影響し、上半期ではマイナスになったものの、下半期は持ち直し、1.0%の増加となりました。コンテナ取扱機能の強化の取組により、中部地域のものづくり産業の物流拠点として機能しています。
		実績	万TEU	257	247	249		
完成自動車輸出台数		仮目標値	万台	(152)	(156)	(161)	170	・完成自動車輸出台数は、輸出先の経済の低迷等により減少したものの、公共岸壁においては、海外で生産された自動車のトランシップも行われるなど、完成自動車ハブ港として機能しています。
		実績	万台	143	136	132		

※ 仮目標値 = 初期値(25年) + (目標値(30年) - 初期値(25年)) / 5年間(政策体系期間) × 25年からの経過年数

構成事務事業の妥当性(施策目的を達成するために構成した事務事業に不足や問題点はないか?)	(見直しが必要な場合、見直しの方向性を記入) ・ポートセールスの推進について、実績値が目標値を大幅に上回り続けていることなどを勘案し、目標値を見直す必要があります。
適正・見直しが必要	

4. ACTION(課題・29年度以降の取組方針)

28年度に取り組んだ内容	課題	29年度以降の取組方針
<p>【展開①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北浜ふ頭における新食糧コンビナート整備事業は、穀物輸送船の入港動向の情報収集に努め、全体行程の見直しや事業費削減等を含めた計画内容の検証の一環として、穀物関連企業への意向調査や協議等を行いました。 ・国・港湾管理者と連携し、名古屋港飛鳥ふ頭物流効率化検討委員会や集中管理ゲートワーキンググループにおいて、集中管理ゲートを計画・設計する際の指針となる技術的な検討を実施しました。また、必要なデータを収集して、引き続き、事業の有効性、効率性などの効果の検証を行いました。 ・金城ふ頭における完成自動車輸送機能の集約・拠点化事業は、埋立免許取得に向けた環境アセスメントの手続きを引き続き行いました。 ・飛鳥ふ頭東側コンテナターミナルの機能強化事業は、R1岸壁の水深15m化、耐震化の設計を行いました。 <p>【展開②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンテナターミナル管理運営体制の見直しは、名古屋港及び四日市港の特性を踏まえ、関係者と打合せを行い、伊勢湾で一つの港湾運営会社の指定に向けた新会社を設立することにしました。 ・四日市港管理組合と合同で作成したPR用のリーフレットを用いて、背後圏の関係自治体等へ伊勢湾の優位性をPRする共同ポートセールスを行いました。 <p>【展開③】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インセンティブによる船舶誘致・港湾施設の効率的な使用促進については、入港料及び港湾施設使用料の減免を実施しました。 ・ポートセールスの推進については、船会社、荷主、商社等との懇談会を本社機能の集中する東京、名古屋地区に加え、浜松市において開催したほか、岐阜県を対象に企業訪問セールス及び荷主説明会を実施しました。また、海外ポートセールス関係では北中米及び東南アジアへ使節団を派遣しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・北浜ふ頭における新食糧コンビナート整備事業は、穀物輸入を取り巻く動向や社会経済情勢が不透明なため、企業動向等を見極めながら、事業費の削減を含めた計画内容を検証する必要があります。 ・集中管理ゲートを取り巻く環境の変化による事業の有効性、効率性などの効果について、引き続き、検証する必要があります。 ・金城ふ頭における完成自動車輸送機能の集約・拠点化事業は、完成自動車の取扱い拠点の分散による非効率な荷役形態の改善や船舶の大型化への対応を図るため、早期に実現する必要があります。 ・飛鳥ふ頭東側コンテナターミナルの機能強化事業は、船舶の大型化や施設の老朽化に対応するため、コンテナターミナルの荷役作業に大きな支障が出ないよう、関係者調整を行いながら、着実に事業を進めていく必要があります。 <p>【展開②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年9月が期限となる伊勢湾で一つの港湾運営会社の指定に向けた新会社を設立する必要があります。 ・伊勢湾連携の推進のため、有効な連携施策の検討・実現に向け、行政機関や港湾利用者など、関係者間の調整を進めていく必要があります。 <p>【展開③】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インセンティブによる船舶誘致・港湾施設の効率的な使用促進については、船舶の誘致や港湾施設の効率的な使用を促進する必要があります。 ・ポートセールスの推進については、名古屋港背後圏においてアクセス整備の進む中、船会社、荷主、商社等の利用者ニーズの把握に努め、官民一体となったポートセールス活動を継続して行うことにより、名古屋港の利用を促進していく必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際バルク戦略港湾施策は、関係者の意見を十分に聞きつつ、全体行程の見直しや事業費削減等を含めた計画内容の検証を引き続き進めていきます。 ・国が全国的に集中管理ゲートを計画・設計する際の指針となる技術的な検討を行うことから、港湾関係者と連携し、必要なデータを収集して、引き続き、事業の有効性、効率性などの効果の検証を行います。 ・金城ふ頭における完成自動車輸送機能の集約・拠点化については、早期の完成を目指し、関係者調整を行いつつ、着実に環境アセスメント手続きを進めていきます。また、84号岸壁の改良についても、平成29年度の完了を目標に、港湾関係者と調整しつつ計画通り事業を進めていきます。 ・飛鳥ふ頭東側コンテナターミナルの機能強化事業は、関係者調整を行いながら、着実に事業を進めていきます。 <p>【展開②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名古屋港及び四日市港の特性を踏まえ、伊勢湾で一つの港湾運営会社の指定に向けた新会社の設立のため、関係者と調整を進めていきます。 ・伊勢湾連携の推進のため、引き続き、四日市港と背後圏への共同ポートセールスを実施するなど、具体的施策の取組を進めていきます。 <p>【展開③】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インセンティブによる船舶誘致・港湾施設の効率的な使用促進については、国際競争力を確保するとともに、船舶の誘致や港湾施設の効率的な使用を促進するため、引き続き、港湾施設使用料等の減免を実施していきます。 ・ポートセールスの推進については、引き続き、官民一体となったポートセールス活動、姉妹港・パートナーシップ港を通じたビジネス機会の創出、港湾振興誌による情報提供を行っていきます。